

令和4年度2学期始業式式辞

おはようございます。

夏休みが終了して、今日から2学期がスタートします。まもなく就職試験も始まり、運動会、修学旅行、農業祭等、学校行事等も目白押しです。

さて、この夏休み中に、皆さんの頑張っている姿を校内外で多く見ることができました。陸上競技部やライフル射撃部の全国大会での活躍をはじめ、農業クラブ各種大会、様々なボランティア活動、新聞にも掲載された「砂浜から車脱出協力に感謝」野球部の皆さんの親切な行動など、どれも頼もしく映るとともに、たくさんの方の元気ももらいました。

話は変わりますが、ことわざ「馬を水飲み場まで連れて行くことはできても、水を飲ませることはできない。」この意味はわかりますか？「喉が渇いている馬に水を飲ませてあげよう」と思い、水飲み場まで連れて行くことはできる。しかし、最終的に水を飲むかどうかは馬自身が判断することであり、人が飲ませることができない」ということです。つまり「周りの人ができる支援、応援、協力などには限りがあって、最終的に行動を決めるのは本人の意思である」ことを教えてくれています。

3年生の多くは、この2学期進路実現に向けて試験を受けます。受験に際しては多くの先生や保護者の皆さんが指導や支援をしてくれます。しかし、最終的に受験を左右するのは自分自身の意思に他なりません。

本校の教育目標にも謳われ、これからの社会を生きていく上で必要とされている「主体性」とは、様々な事を「自分事」として考える力です。当然のことですが、就職や進学をするのは先生でもなく保護者でもなく生徒の皆さん自身です。

授業も同じです。座学や実習において、どれだけ先生が熱心に教えても、受ける側の「もっといろいろな事を知りたい」「もっとできるようになりたい」という向上心・探求心がないと、目の前に準備された水を飲まないのと同じで、教えられたことが身につくことはありません。それどころか、やる気がない状態で授業を受けることは、飲みたくない水を無理やり口に入れられるのと同じで、どんどん勉強がいやになり、面白くなくなる。まさに、悪循環です。

一方、自分自身の成長に夢を描き、できる喜びや知る楽しさを感じながら取り組む人は、様々な試練も意欲を持って乗り越えていきます。例えば、冒頭で紹介した夏休み中の多くの成果の裏には、いままでとてつもない苦労や頑張りがあつたはずで、それを乗り越えられたのは、根底に「もっと知りたい」「全国に行きたい」という強い思いがあつたからだと思います。

良い循環になるか悪い循環になるかは、自分自身の考え方、捉え方ひとつです。学校の指導が自分自身の成長に繋がるという考えを持つことができれば、高校生活が前向きなものになります。

それでは、伊予農高生の皆さん、2学期を新たな意味あるスタートにしていきたいでしょう。そして将来の自分をしっかりと見つめる学期にしてください。